研究課題　文禄の役における朝鮮王子関連文書の調査・研究・目録化

研究経費　五〇万円

研究組織

　研究代表者　　　川西裕也（新潟大学・助教）

　所内共同研究者　金子拓

　所外共同研究者　木村拓（鹿児島国際大学国際文化学部・准教授）・久野哲矢（佐賀県文化スポーツ交流局文化課・主査〔学芸員〕）

研究の概要

（１）課題の概要

　文禄の役の最中の1592年7月、朝鮮国王・宣祖の王子である臨海君・順和君が日本軍によって捕縛された。その後、二人の朝鮮王子は、約1年間にわたって日本軍の捕虜となっていたが、翌年6月、一時的な講和の成立にともなって解放された。  
この二人の朝鮮王子のエピソードについては、文禄の役における重大事として広く知られている。しかし、彼らが捕虜となっている間に日本の武将や僧へ送った文書（書簡・詩文など）が日本各地に多数現存することについては、これまでほとんど注目されてこなかった。その結果、二人の朝鮮王子の動向については不明な点がきわめて多い。  
本研究では、こうした研究現況を踏まえ、日本に現存する二人の朝鮮王子文書を網羅的に調査・研究・目録化することを目的とする。原本が確認できるものについては実見調査を行い、各文書の詳細なデータを集積する。また、各文書の発給年月日と様式・内容を検討した上で、編年目録の作成と公開を行う。

（２）研究の成果

　2020年11月から2021年3月まで、東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄附研究部門と共同で、3回に渡って研究会（壬辰戦争研究会）を開催した。本研究会はzoomを用いてオンラインで開催されたが、国内外から多数の研究者が参加し、活発な議論が交わされた。研究会を通じて得られた多岐に渡る知見は、今後の研究に大いに活用されるものと期待される。